



(仮称) 町田市立国際工芸美術館整備
基本計画
概要版



文化芸術で



2014年6月

町田市

1. 計画策定の背景

(1) 社会的背景

さらなる「まち」の魅力を発掘、創造、発信していくことが必要です。

「住みたい」、「訪れたい」、「活動したい」と思えるような、人を惹きつける都市になるには、従来どおりの市民サービスの提供だけではなく、まちの魅力を発掘、創造し、それらを多くの人に発信していくことが必要になっています。

(2) 町田市を取り巻く状況

豊かな自然環境と優れた交通利便性をもつ町田は、さらなる都市の魅力を獲得しなければなりません。

町田市は、古くから街道沿いのまちとして、今日では首都圏有数の商業集積地として発展してきました。しかし、周辺都市間での経済競争等も見られるようになり、持続的にまちの賑わいを図っていく必要があります。

(3) 文化芸術を取り巻く町田市の状況

文化芸術に触れる機会や場をさらに充実させる必要があります。

町田市が文化芸術の盛んなまちとして都市の魅力を高めていくためには、良質な文化芸術にふれる機会や場の提供を継続し、普及をすすめていくことが必要となります。

2. 町田市における文化芸術拠点施設

町田市の文化芸術拠点施設には、特色ある工芸美術資料を有する町田市立博物館、コレクションと活動に定評がある町田市立国際版画美術館があります。

(1) 既存の文化芸術拠点施設

町田市には町田市立博物館のガラスや陶磁器等の工芸美術分野の充実したコレクションや町田市立国際版画美術館の特色ある版画コレクションがあり、町田市の文化芸術振興にとっての重要な財産となっています。

(2) 町田市立博物館の工芸美術部門

町田市立博物館の工芸美術に関する活動は、生活に密着した美としての工芸美術品の収集と活用に、町田市が数十年前から努めてきた成果といえます。その充実したコレクション、活動は内外で高く評価され、町田市の先見性と文化的実力の証といえます。

3. 国際工芸美術館に関する検討経過と上位計画

(1) 検討経過

町田市立博物館の工芸美術部門は考古歴史民俗資料部門と切り離し、国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して文化芸術振興に寄与することが求められています。

2010年度、有識者による「町田市の博物館等の在り方検討委員会」において検討の結果、町田市立博物館の工芸美術部門は、芹ヶ谷公園内にある国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して文化芸術振興に寄与すべきであると結論づけられました。これを受け、2011年度、新しい博物館の基本構想「町田市における博物館機能の再整備

に向けた調査検討報告書」を策定、工芸美術資料を活用して「魅せる」「楽しむ」「支える」ための機能を充実させた「まちの賑わい」に寄与する工芸美術館として、次の理念と基本方針を策定しました。

■基本理念

「くらしの中の知恵と美」の探究

身近にあるくらしのなかの器や道具などに込められた、人類の知恵や美に対する思いを明らかにしていく

■基本方針

1. 知恵と美のエッセンスにあふれる「もの」に光をあてていきます
2. 「くらしの中の知恵と美」を解き明かしていきます
3. わたしたちのくらしと結びつけ、町田の文化の発展に貢献します

(2) 上位計画

「まちだ未来づくりプラン」・「町田市新5カ年計画」を実現するための計画として、
「町田市文化芸術振興施策の基本方針」その他関連計画との整合を図ります。

4. 国際工芸美術館の目指すもの

- 町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」 基本目標
「賑わいのあるまちをつくる」
- 「町田市新5カ年計画」 重点事業
「文化芸術の拠点施設の整備」「文化芸術作品の鑑賞機会の充実」
- 「町田市文化芸術振興施策の基本方針」
町田市の文化芸術について、「魅せる」、「楽しむ」、「支える」取り組みを通じて、「文化芸術で人とまちがにぎわう・まちだ」というコンセプトの実現を図る。

良質な文化に触れる機会を提供し、まちの賑わいに貢献していくことを目指します。

町田駅から徒歩でもご来館いただける芹ヶ谷公園内に整備することで、国内でも有数のコレクションを多くの人に鑑賞していただける美術館を目指します。また、国際版画美術館とともに「美術ゾーン」を形成し、周辺の文化施設や中心市街地の商店街などと連携することで、まちの魅力向上、まちの賑わい創出につなげていきます。

2

建設候補地

駅からのアクセスや中心市街地との回遊性を考慮し、国際版画美術館北側を建設候補地とします。

多くの人にご来館いただき地域を活性化するという視点に立てば、町田駅周辺の中心市街地からの徒歩でのアクセスや回遊性が最も重要な視点となります。中心市街地と公園との回遊性を確保しやすい等の点で、芹ヶ谷公園の中心市街地側入口から徒歩のルート上に位置する国際版画美術館北側を建設地とします。また、その施設のエレベータを美術館の来館者だけでなく芹ヶ谷公園の利用者もご利用いただけるように計画することで、町田駅側と芹ヶ谷公園中央部との高低差解消にもつながり、アクセスの改善や中心市街地との回遊性を向上させることができます。

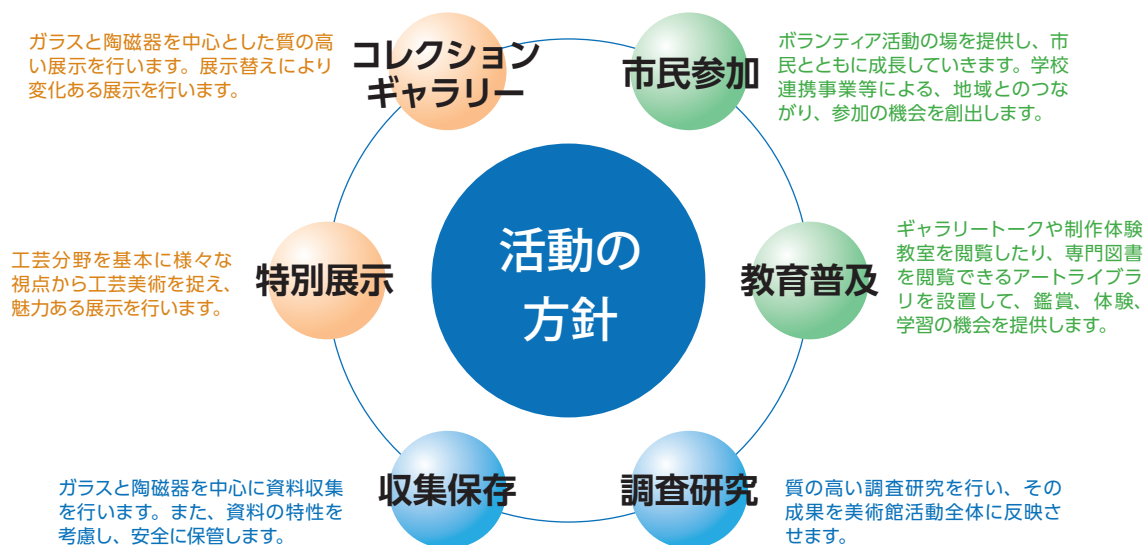


■建設候補地
町田市原町田 5-16
国際版画美術館北側

文化芸術振興とまちづくりの拠点として、質の高い美術館活動に加え、地域やさまざまな団体等との連携および積極的な広報・PR活動を推進します。

1. 国際工芸美術館の基本的な活動

■事業活動の概要



(1) 展示：工芸美術との新鮮な出会いの場を市民に提供します。

特別展示室（企画展示）、コレクションギャラリー（常設展示）、多目的に使える「フレキシブルスペース」を設け、さまざまな規模の展示開催に対応し、新鮮で変化に富んだ展示を行えるようにします。

(ア) コレクションギャラリー（常設展示）

ガラスや陶磁器の常設展示では、年数回程度の展示替えを想定し、展示室ごとに展示替えの時期をずらすことにより、常に新しい作品が見られるようにします。



コレクション

(イ) 特別展示

所蔵する作品だけでなく、他館からの借用作品等をあわせた特別展示を行います。

特別展のテーマ設定の範囲は、ガラスや陶器を中心に工芸美術全般にわたります。国際工芸美術館の基本理念『「くらしの中の知恵と美」の探究』にもとづき、斬新な視点の構成で、工芸美術の美しさ、楽しさ生活とのつながりを体感できるように展示します。

なお、特別展示と所蔵資料にもとづく企画展をあわせて行うことも想定しています。



特別展示（イメージ）

(2) 収集保存： ガラスと陶磁器を中心としたコレクションをさらに充実・強化します。

国際工芸美術館のコレクションの特長であるボヘミアンガラス、東南アジア陶磁器といった所蔵作品に関わりの深い作品を中心に、工芸美術作品を購入、寄贈、寄託により収集します。

(3) 調査研究： 工芸美術専門美術館の活動を支える調査研究を行うとともに、その成果を広く発信します。

工芸美術専門館として、「くらしの中の知恵と美」をテーマとした工芸美術分野の中で所蔵資料を軸に調査研究を行います。美術館機能を高めるための保存、展示、教育普及に関する調査研究を行い、活動の基盤を強化、発展させます。更に他館や大学等と連携した調査研究にも積極的に取り組みます。このような調査研究の成果について広く発信します。

(4) 教育普及： 鑑賞、体験、学習を柱とした活動を展開します。

市民が工芸美術に親しみ、興味を広げ、自ら主体的に学んでいくことを支援することを目的に展開し、特に、ガラス・陶磁器の制作体験ができる体験工房の整備に取り組みます。

● ギャラリートークや公開制作など

学芸員による作品解説、作家の作品制作の現場の公開など、より多くの人々が工芸美術の魅力を理解し、親しめるようにします。



ギャラリートーク (イメージ)

● 体験工房

幅広い人々に工芸美術の魅力を伝え、所蔵作品や展覧会への理解を深めることを目的とした、ガラス・陶芸を主とした講座を開催します。初心者でも気軽に参加でき、さらに本格的な制作体験を希望する参加者には、市内の他工房の情報提供も行います。



体験工房 (イメージ)

● 講演会・講座、アトライブラリーなど

学芸員や作家等による講演会や講座の開催、工芸美術に関する専門書の閲覧や貴重書のデジタルデータ (PDF形式) 閲覧ができるアトライブラリーを設置し、工芸美術の魅力を学ぶ機会を提供します。所蔵作品や他館に関する情報提供を行います。



アトライブラリー
参考イメージ：世田谷美術館アトライブラリー
写真提供：世田谷美術館

(5) 市民参加： 美術館活動に市民が参加する機会を創出します。

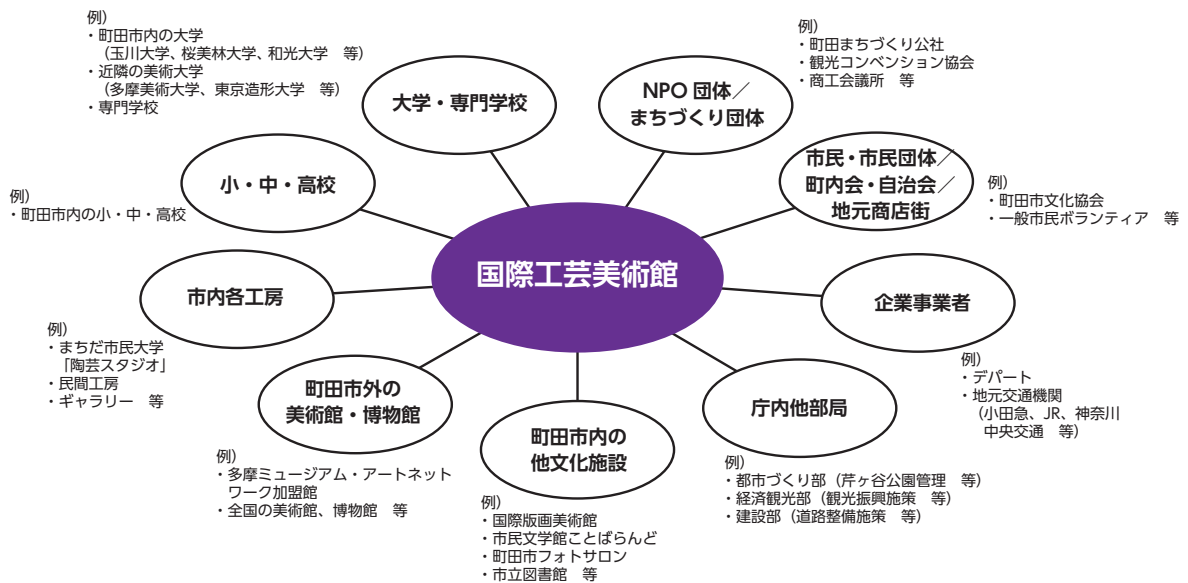
特色をもった専門美術館として工芸美術への理解を深め、市民の主体的な学習活動や文化芸術活動を支援しながら市民とともに成長していきます。市民の声が美術館の活動に反映される開放的な運営をします。市民と美術館が一体となった活動を推進するための場の提供、学校、商店街、地域との共催事業など、地域とつながり、市民参加の機会を創出します。

2. 文化芸術の魅力あふれるまちに向けた活動

(1) 連携：さまざまな主体と連携した活動を行い、文化芸術の魅力あふれるまちを実現します

地域や教育機関、文化施設等と積極的に関わり、事業連携を行うことにより、工芸美術の魅力を伝え豊かな感性を育む機会を創造・提供します。周辺大学との連携、所蔵作品の活用など、特徴を活かした連携の方法、内容を検討します。

■連携の対象



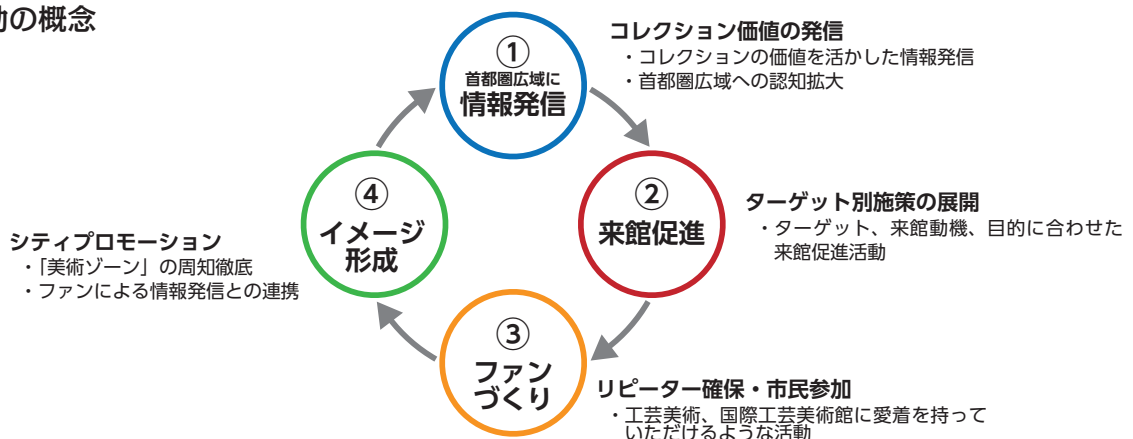
(2) 広報・PR活動

来館促進活動によるにぎわいの創造を通じて、文化芸術の魅力あふれるまちのイメージを発信します。

市民だけでなく首都圏広域の人々、さらには外国人の方なども視野に入れて、多くの人々の来館を促進していきます。

より多くの来館者と首都圏広域におけるファンの拡大がまちのイメージ形成とその普及・発信を促進し、それがさらなる新たな来館者の獲得につながっていくような活動を行います。

■活動の概念



4

施設計画に向けた基本的な考え方

文化芸術の拠点にふさわしい施設機能を整備します。

文化庁による文化財公開施設の基準を満たす機能を整備することで、資料の保管・展示における安全に対する信頼性を確保し、ガラスと陶磁器を中心にした国際工芸美術館の活動を充実、発展させます。また教育普及事業をはじめ、将来的に活動が広がる場合を考慮した施設配置や諸室計画を行い、国際版画美術館、芹ヶ谷公園と相乗する効果がさらに発揮できる施設計画を実施して町田市における美術ゾーンの形成を図ります。

(1) 周辺施設と連携した地域回遊動線の計画

町田駅-中心市街地-芹ヶ谷公園および公園内における回遊性の向上に配慮します。徒歩来館の利便性を考慮し、アプローチの工夫、サイン計画を行います。

(2) 誰もが快適に利用できるユニバーサルな施設づくり

気軽に利用できる開かれた施設とするため、くつろぎのスペース確保やユニバーサルデザインの採用等により、誰もが利用しやすい快適な施設とします。多言語対応や、点字、音声案内等にも配慮します。また、団体利用に必要な十分なスペースの確保にも留意します。

(3) 環境や景観に配慮した施設づくり

町田市公共事業景観形成指針に基づいた計画により、周辺景観との調和を図ります。また、省エネルギー、環境負荷軽減等に配慮した施設計画を行います。

(4) 施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減化

計画的で適切な維持管理、素材や施設配置の工夫により、メンテナンス性の向上、長寿命化、ライフサイクルコストの軽減を目指します。

(5) 健康で安全な環境の保全対策

排水、廃棄物等は、規定に従って適切に処理し、健康で安全な環境の保全に努めます。

(6) 災害対策

集中豪雨時の浸水対策や地震対策など様々な災害を想定し、対策を検討します。特に、貴重な美術品を取り扱うという特質上、地震への対策は重要視します。

■ 諸室面積

展示エリア	展示室	約 500㎡
交流エリア	エントランスホール、工房等	約 580㎡
調査研究運営エリア	事務・学芸執務室等	約 500㎡
収集保存エリア・その他	収蔵庫、展示用品倉庫、廊下等	約 1,420㎡
	合計	約 3,000㎡

5

管理運営の基本的な考え方

社会的状況の変化に対応するため、活動や運営等の定期的な見直しに努めます。また、民間活力の導入も含めた運営の体制、手法を検討し、限られた資源の中で最大限の効果を実現していくことを目指します。

(1) お客様満足の追求

(ア) おもてなしの質の向上

利用しやすく、くつろげる空間で、ガラスや陶磁器と向き合う豊かな時間を提供します。

(イ) 展示の質の向上

社会や市民のニーズを考慮した、魅力的で質の高い展示企画を行います。

(ウ) 付加価値の提供

展示鑑賞に加え、市民の学習支援や様々な体験、活動参加への機会を提供します。

(2) 工芸美術館としての存在価値の確立

(ア) 工芸美術館としての専門性の向上

工芸美術に特化した調査研究、収集保存に重点を置き、専門性を高めていきます。

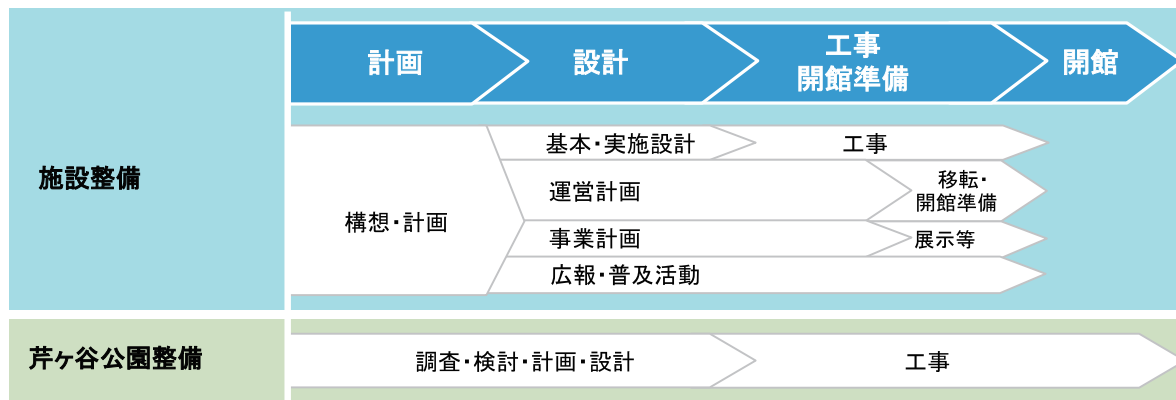
(イ) 工芸美術館としての社会的評価の確立

長期的な展望を持った美術館活動を展開、工芸美術専門美術館としての評判形成および美術ゾーンの発展に貢献します。

6

建築・開館に向けて

■業務フロー



(仮称) 町田市立国際工芸美術館整備 基本計画

概要版

2014年6月発行(刊行物番号14-7)

発行 町田市文化スポーツ振興部文化振興課
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
Tel. 042-724-2184

支援 株式会社トータルメディア開発研究所